

## 自民党総裁選

## 自民党は生まれ変われるのか

ジャーナリスト

泉 洋海

岸田文雄首相が自民党総裁選への立候補断念を表明し、次々と候補者が名乗りを上げた。現職総裁の不出馬で、政権内の閣僚や党役員も遠慮する必要がなくなったからだ。9月上旬の段階で、40歳代を含む10人超が出馬を模索。来秋に任期を迎える衆議院の解散・総選挙が近いと見込まれることから、「選挙の顔」としての刷新感が求められる。しかし、大切なのは自民党派閥パーティー裏金事件など「政治とカネ」で失った国民からの信頼を取り戻すことだ。

事件を終わったかのように扱ひ、「刷新感」でごまかそうとするようでは自民党は生まれ変わらない。

## 混戦模様

総裁選には、5度目で最後の挑戦という石破茂元幹事長と小林鷹之前経済安全保障担当相、河野太郎デジ

タール相が立候補を表明したほか、小泉進次郎元環境相、林芳正官房長官、茂木敏充幹事長、高市早苗経済安全保障相らが会見を予定。加藤勝信元官房長官、上川陽子外相、斎藤健経済産業相、野田聖子元総務相らも出馬を模索している。

総裁選は12日告示、27日投票で、15日間の日程はこれまでで最長とされる。各候補者が政策などをきちんと発信し、党勢回復につなげる狙いだ。国会議員票367人と、同数の党員・党友票で競い、1回目の投票で過半数を取る候補者がいなければ、上位2人による決選投票となる。立候補には、推薦人20人を確保する高い壁がある。

現職が立候補しない総裁選は候補者が多数出る傾向にあるが、今回はほとんどの派閥が解散し、領袖が決められた人に投票するのではなく、自分の考えで推す人を決める傾向にある。1つの派閥や旧派閥から複数の

候補が立候補するケースもあり、混戦模様だ。

## 万策尽きて

総裁選が注目されるきっかけとなったのは、岸田首相による不出馬発言だった。盆休み最中の表明で、岸田氏は「当面の外交日程に一区切りがついた」と話したが、万策尽きたということだろう。翌週には別の人が総裁選へ出馬表明すると聞き、それより前にとこの日程になった。

岸田氏は再選を模索していたとみられる。6月の国会閉幕を受けた記者会見では、物価高にあえぐ国民の状況を受け、秋にも経済対策をまとめる考えを示すなど再選戦略を立てていたようだ。閉幕後も憲法改正に向けた動きを続けるなど保守派にもアピール。ただ、後ろ盾の麻生太郎副総裁とは、改正政治資金規正法を巡り公明党に歩み寄ったことで生じ

た溝を埋められずにいた。唯一残る派閥を率いる麻生氏から、支援の確約を引き出せなかった影響は大きい。

周辺によると、岸田氏は、経済対策や得意の外交を展開しながら、衆議院の解散・総選挙を来年の任期満了近くまで延期することで党内の支持を得ようとしたという。しかし、「政治とカネ」で国民の不信感のしかかり内閣支持率は20%台で低迷した。仮に総裁選に勝っても衆院選には勝てないと判断し、早々に引いてキングメーカーになる道を選んだのだという。

「政治家としてやりたかったこと、やるべきことを整理し、方向性を示す、それだけは総裁選から撤退するに当たってしつかり示す。政治家の意地みたいなものはあった」。

岸田首相は会見で、総裁選から撤退する無念さを「意地」という言葉



当面の外交日程に一区切りがついた＝万策尽きた？

「自民党が変わることを示す、最も分かりやすい一步は私が身を引くことだ」と説明した。そして、「所属議員が起こした重大な事態について、組織の長として責任を取ることにはいささかの躊躇もない」と強調し

で表した。低い支持率とは裏腹に岸田氏は自らの政権運営に自信を持っていたが、最後は自民党派閥パーティー裏金事件に追い込まれた。

だが、躊躇がなければ、もっと早く辞めていただろう。

### 「政治とカネ」の決算は

それでは、引き金となった「政治とカネ」について、各候補はどのように取り組むつもりなのか。

最初に出馬会見をした小林氏は、自民党派閥パーティー裏金事件の実態解明について「党による調査には限界がある」と再調査に消

極的だった上、裏金で処分を受けた安倍派議員の処遇改善にも理解を示した。安倍派の中堅・若手議員らが

中心となって担ぎ上げたが、裏金議員の「駆け込み寺」ともささやかれる。

報道機関の世論調査による「次の首相にふさわしい人」でトップ常連の石破氏

は出馬表明の際に、裏金事件に関係した議員について「公認するかどうか徹底的に議論すべきだ。説明責任

を果たすことが大事で、仮に政治活動に使われていなかったとすれば納税するこ

とになるだろう」などと述べた。だが、翌日には「公認するかどうかは新体制が決める。まだなっていない者が予断を持って言うべきではない」と修正した。

河野氏はこれまで打ち出してきた「改革派」の看板を下ろし、今回は新型コロナウイルスのワクチン接種やマイナンバーカードの推進など実行力を前面に出した。持論だったエネルギー政策の「脱原発」を修正し、建て替えも選択肢として示すなど

「異端児」イメージも封印。麻生派の支援を受けることで数は安定するが、守旧派のイメージもつきまとう。首相になった場合は、派閥を離脱するという。裏金事件には、政治資金収支報告書に記載せず受け取っていた金額を議員に返還させる、とした。

世論調査の「次の首相」でも人氣が高く、本命視される小泉氏は菅義偉前首相の支援を受け、総裁選を有利に展開しそうだ。関係経験は環境相のみで経験不足は否めないが、「刷新感」から自民党内でも期待する声が多い。とはいえ一皮むけば菅氏らキングメーカーが顔をのぞかせる。



「表紙」だけを替えてごまかそうとするなら有権者は自民党を見限るだろう

党派閥の政治資金問題への対策を重要テーマに掲げるといふ。石破氏も地方票は取るだろうが、決選投票になった場合、国会議員票をいかに積み上げるかが課題となる。これに小林氏ら他の候補がどう絡むか。

共同通信が岸田首相の退陣表明後に行った緊急世論調査では、岸田氏の退陣が、派閥政治資金パーティー裏金事件からの「信頼回復のきっかけにならない」とする回答が78.0%に上った。政治とカネの問題に真剣に向き合わず「表紙」だけを替えてごまかそうとするならば、有権者は自民党を見限るだろう。